

東京、大森高校を5対4で下す

13延長 奇跡のサヨナラ勝ち

優勝天理高校との対戦に闘志燃やす 候補 天理高校との対戦に闘志燃やす

全国高校定時制通信制軟式野球大会が9日は、西日代表の師友塾高校は初戦で東京の大森高校と対戦、延長13回、5対4でサヨナラ勝ちした。奇跡を呼ぶ、サヨナラ勝ちで2回戦である優勝候補の筆頭、奈良、天理高校との対戦に意欲を燃やしていた。三塁側には500人を越す応援団が詰めかけ、攻撃のたびに大きな声援をおくっていた。

東京は曇り時々小雨の天候で暑さも峠を越え、時折心地良い風が吹いていた。神宮球場で開会式を終えた第2試合、屏風ぎに始まった大森高校との試合開始時間は小雨も上がり、野球日和になった。試合は1回裏、師友塾高校が制球に苦しむ相手投手から連続四球をえらび2点を勝ち取り、先発の投手はスタートを切った。4回にも盗塁をからめ1点を追加し試合を優位に進めた。投手の福島君は尻上がりに調子を上げ、所要

所で三振を取り、5回まで無失点に抑えたが6回、2死満塁からセンタースタートにヒットを打たれ、1点を失った。続く7回、投手は福島君から主将の酒井君に代わり、その立ち上がりが大森高校の4番、五番の強打者に長短打を浴び、2点を献上し3対3の同点になった。8、9回と両投手が無難に抑さえ延長10回の表、大森高校が四球を足かがり、三盗を決め、三塁打で1点をあげ勝利の女神は大森高校に傾むきかけた。その裏、2死満塁からテッドボール

延長11回、2死満塁の好機を逃した大森高校に對して、延長13回2死満塁から主将の酒井君がさよならヒットを放ち、初戦を制し、奇跡を呼ぶ勝利をおさめた。大森高校の選手がのんげんだり守備につくのと対照的に師友塾高校の選手達はきびきびと全力疾走で守備につき、攻撃のたびに内陣を組み意気揚々と進んでいく。大森高校の選手は、大森高校の勝利の余韻も感じなかった。選手は意

外に頑張る、よくやりました」とおぼろげに「写真上は延長13回、サヨナラ勝ちし喜ぶ選手達。中は一生懸命、応援旗を振る石塚君。下は記念写真におさまる選手と応援のみなさん」。

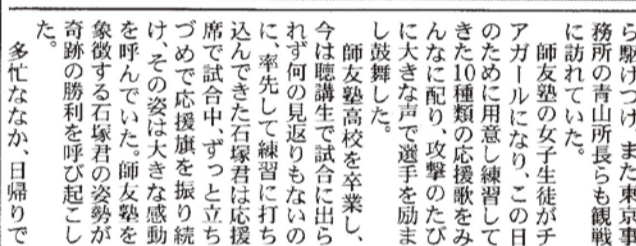
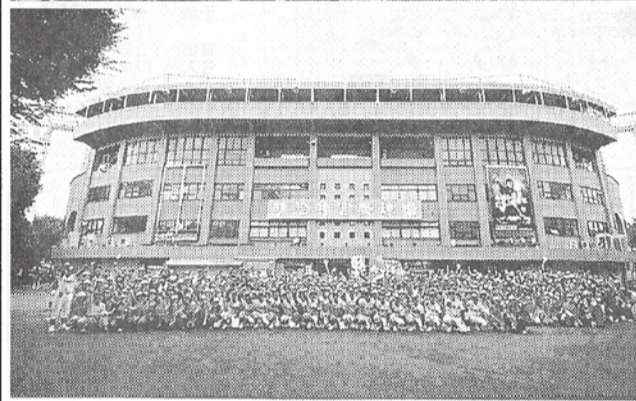
石塚 応援旗振り続ける

加納副市長ら500人が声援

1塁側、地元東京の大森高校の応援席はわずか20数人に対して3塁側師友塾高校の応援席には500人を超える人が詰めかけ、お揃いの真っ赤なシャツと帽子をかぶり、大きな声援をおくっていた。

加納副市長や師友塾の私設応援団長や評議員の半田公典さんらも尾道から駆けつけ、また東京事務所の青山所長らも観戦に訪れていた。師友塾の女子生徒がチアガールになり、この日のために用意し練習してきた10種類の応援歌をみんなに配り、攻撃のたびに大きな声で選手を励まし鼓舞した。

師友塾高校を卒業し、今は聴講生で試合に出られず何の見返りもないのに、率先して練習に打ち込んできた石塚君は応援席で試合中、ずっと立ちづめで応援旗を振り続け、その姿は大きな感動を呼んでいた。師友塾を象徴する石塚君の姿勢が奇跡の勝利を呼び起こした。多忙ななか、日帰りで跡にしていた。



応援席から「よく、やった」

宿敵天理に1対0で惜敗

ベスト鉄壁な守りで福島君が好投

（続報）全国高校定時制通信制軟式野球大会で初戦を飾った師友塾高校は2回戦で優勝候補の天理高校と対戦、1対0で惜しくも敗れた。強豪相手に互角の戦いで悔いのないゲームをおこない、選手の表情は晴れ晴れとしていた。選手ははや、来年に目を向け、天理高校が勝ち進むだろう決勝戦まで居残り天理野球を研究、あと一歩届かなかった全国制覇に向けて歩みは始めている。



東京、大森高校にサヨナラ勝ちし、気分よく臨んだ2回戦、奈良、天理高校との対戦は10日午前11時半から駒沢球場でおこなわれた。初回、天理高校が2死2塁から4番の強打者が3塁打を放ち1点を先制した。天理高校の得点は初回の1点だけで師友塾高校の投手、福島君は2回以降は強打の天理打線を3安打、2四球に抑える力投で追加得点を与えなかった。力のあるストリートを中心に緩急をまじえた頭脳的ピッチング

で天理打線を寄せ付けなかった。相手投手も見事なピッチングで師友塾高校の安打はわずか2本で3塁を踏ませなかった。唯一のチャンスは5回、2死2塁、あと1本が出なかつた。息づまる投手戦を制したのは天理高校で師友塾高校はあと一歩おぼろげに。練習試合で昨秋には2対1、今年初夏には8対0で敗れており、三度目の正直ならなかった。天理高校は硬式野球から転部してきた猛者がごろごろおり、4

5人でポジション争いしている強豪でこの5年間、4年度全国制覇している。師友塾高校は創部2年目に強豪天理高校と互角に戦えるチームにまで成長してきた。悔し涙はなく、すがすがしい気持ちで球場を去っていた。応援席には元スuis大の松井五郎さんら前日と変わらぬ500人が詰めかけた。試合が終るとみんな立ち上がり「よく、やった」と大きな声援と拍手をおくった。選手をねぎらった。主将の酒井君は「今日は試合はベストゲームでした。攻撃は課題は残りましたが守備は鉄壁でした。色々な人に応援してもらい、師友塾高校で野球できて幸せでした。と力強い応援が励みになったと感謝していた。高柳コーチは「初めて全国大会ということ

2010年(平成22年)8月10日 火曜日 厚月 日 楽斤 屋

軟式野球	9日
全国高校定時制通信制 (朝日新聞社など後援)	
師友塾・通 延長制	
第57回大会が、東京・神宮球場などで開幕し、1回戦があった。	
▽1回戦	
華陽フロンティア(岐阜)	000000100001
水戸南・通(茨城)	110000000002
【華】市川・後藤【水】美沢、山中・石井	
大森(東京2)	0000012000100004
2001000000100015	
師友塾・通(広島)	0000000000015
(延長13回)	
【大】西藤、亀本、松本・成瀬	
【師】福島、酒井・上島	
有朋(北海道)	00002070110
00012000115	
朱雀(京都)	10012000115
【有】上坂、島本・内田【朱】	
秋武、水谷、中野・水谷、松本、水谷	
湧心館(熊本)	00000100001
0402010007	

初戦の大森高校との試合は緊張していましたが天理高校とは2度対戦しており、思い切りプレーし好試合を演じました。負けは悔しいけど来年、再来年に向けて頑張りたいと話していました。大森監督は「選手はよくやりました。天理高校は働きながら勉強している選手が多く、礼儀正しい引き締まったチームで学ぶところが多かった。天理の壁は厚かったが、来年に向けて頑張ろうと語り、一人ひとりに金メダルをプレゼントし、慰労した。選手達は天理高校に敬意を表するとともに天理野球を丸裸にし研究しようとする天理高校が進むであろう決勝戦まで居残り観戦、来年こそは全国制覇したい」と誓いも新たにしていた。写真上は好投した福島投手。下は応援に駆けつけたみなさんに頭を下げ、礼を言う選手たち。